

1 学校教育目標

本校の綱領「自己を知り、自己に培い、社会を知り、社会を愛せ」に基づいて、自ら目標を持って学ぶ力を養うとともに、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立した人間の育成を目指す。

2 重点目標

- ・ 学校の活性化と特色化の推進
- ・ 異文化への寛容性と共に、課題意識を持ち、自らの意見をはっきりと述べる事ができるグローバル人材の育成
- ・ 生徒の進路目標実現に向けて、学校全体で組織的に取り組む体制の確立
- ・ 学校の魅力、特色の積極的広報活動

4 学校関係者評価

- ・ 挨拶、身だしなみ等、基本的生活習慣の確立を自覚しているようだ。この状態をよき伝統として保ち続けてほしい。
- ・ 今年度の進路結果も順調で、進路指導は充実していると感じている生徒が多い。引き続き丁寧な指導をしてほしい。
- ・ 地域との連携を進めたフィールドワーク等グローバル学習に対する取組は活発である。さらに情報発信を強めてほしい。
- ・ 英検、部活動、各種コンテスト等はよく頑張っている。これらをうまく活用して生徒のモチベーションをさらに高めてほしい。
- ・ アンケートの結果から、家庭学習があまり充実していないことが伺える。スタディサプリの活用法をさらに研究し、フォローをしながら、家庭学習の方策を立ててほしい。
- ・ 自分の自己実現を図るためにも、目標設定(長期・中期・短期等)の仕方を学ぶ機会が必要である。
- ・ インターネット上には人権侵害があふれている。それらに影響されず人権教育で学んだことを活かしてほしい。
- ・ SNS等を使いたいじめは発見しにくいので、相談体制を充実してほしい。

3 学校自己評価結果(5…よくできた 4…できた 3…どちらともいえない 2…あまりできなかった 1…できなかった)

分野	評価内容	H30平均	学校の取り組み状況・改善の方策
基本的生活習慣の確立	・ 挨拶の励行、交通マナーの向上など社会性の育成や、基本的生活習慣の確立	4.4	・ 登校時の昇降口での挨拶の励行や授業開始、終了時の挨拶の徹底等に重点的に取り組んだ。 ・ 年度当初に、集会時の集合や礼について、指導することで、これまでの良い伝統が引き継がれた。 ・ PTAによる挨拶運動や、列車指導等、保護者の協力が得られた。
自ら目標を持って学ぶ力の育成	・ 目的意識を持った学校生活や行事への取り組み	4.2	・ 観光・グローバル教育発表会に向けて、フィールドワーク等、生徒の自主的な学びを推進した。 ・ 英語検定・GTEC等、生徒に目標を持たせ、資格取得に向けた取組を進めた。 ・ ソフトテニス部の近畿大会出場や家庭科部のビジネスプラン・グランプリトップ100入賞などの活躍。 ・ 部員数確保が難しい部活動への入部促進を図る方策を引き続き考えていかなければならない。
	・ 部活動の活性化	3.8	
人づくりの基盤としての道徳性の育成	・ 人権HRを通じた人権意識の高揚	3.6	・ 各学年ごとにテーマを決めて人権HRを実施した。 ・ SNSの利用において、相手を思いやる気持ちを育てるため、適切なスマホ利用の継続指導を行った。
主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成	・ 家庭学習習慣及び自ら学ぶ姿勢の確立	2.2	・ 週末課題、スタディサプリを利用した課題等、家庭学習習慣を身につけるために、各教科で工夫した。 ・ 学習への意義が見出せるように、相談活動等、動機付けを高める取組を進める必要がある。
進路希望の実現	・ 進路実現のためのカリキュラム設定	3.7	・ 今年も一般入試より、AO入試、推薦入試を受験する生徒が増加する傾向であった。 ・ 国公立大学、私立大学、SGHを利用したAO入試等で昨年度より合格者が増加した。 ・ 進路ガイダンス等、進路関連の行事を充実させ、情報提供を進めた。 ・ キャリア探究の授業で大学等を訪問し、自己の興味・関心を高め、進路目標を立てる一助とした。 ・ 国公立大学や4年生の大学を目指す生徒を多くするための計画的な指導をしていく必要がある。
	・ 進路指導の充実及び家庭への適切な進路情報の提供	3.8	
	・ キャリア教育の推進	3.6	
教職員の資質の向上	・ 授業の工夫改善及びわかりやすい授業の確立	3.8	・ ICT教育の指定を受け、数学科・英語科を中心に電子黒板やIpadを利用した取組を推進した。 ・ iPadの有効活用等、主体的、対話的で深い学びを推進する授業の研究に努めなければならない。
開かれた学校づくり	・ 家庭への連絡及び情報の積極的提供	4.3	・ フィールドワークで地域に出て活動したり、発表会を行ったりするなど、地域との連携を推進した。 ・ 生野高校通信を近隣の中学校には、3年生の人数分印刷して配布し、広報に努めた。 ・ 学校HPのブログ更新を頻繁に行い情報を広く提供したが、HPのレイアウトの工夫が必要である。
	・ 地域との連携を図った行事の実施	3.2	
安全安心な学校生活	・ 校内の環境整備の適切な実施	3.4	・ いじめアンケートを年3回実施し、その結果を精査し、いじめの予防・早期発見に努めた。 ・ 生徒面談やキャンパスカウンセラーの活用により、生徒の心身の状況把握に努めた。 ・ いじめ発見後は、いじめ対策チームで対策を検討し、迅速な対応に努めた。 ・ 防災避難訓練や1.17追悼行事、3.11追悼行事を活用し、生徒の防災意識の高揚に努めた。
	・ 防災や生徒の安全への配慮	3.4	
	・ 生徒の心身の状況把握及びいじめ等の予防への対処	3.8	